



天文資料

2020年 8月号

令和2年度 第5号 (8月号)

令和2年7月31日

発行：佐世保市少年科学館
佐世保市少年科学館



＜梅雨明けです！しかし新型コロナウイルスの感染拡大は心配です。＞

6月11日に梅雨入りした長崎県ですが、7月が終わろうかという時期によく梅雨明けになりました。それにしても、ここまで長い梅雨の期間は記憶にありません。九州中南部では大きな被害が出ています。早く天候が回復し復旧が進むことを願っています。加えて新型コロナウイルスの感染拡大が目立ってきたので、こちらも気を付けてください。

では8月の星空をご紹介します。8月は夏の大きな三角が頭上高く見えるようになります。今年は8月25日が旧暦の七夕にあたりますので、織姫星(こと座ベガ)と彦星(わし座アルタイル)の姿もお楽しみいただきたいと思います。その彦星の南には-2等級で金色に輝く木星と0等級で白色に輝く土星があり、周囲を圧倒する存在感を見せています。

北東の地平線からペルセウス座が昇ってきました。8月12日の夜はペルセウス座流星群がピークを迎えます。ペルセウス座の方向から、空全体にわたって

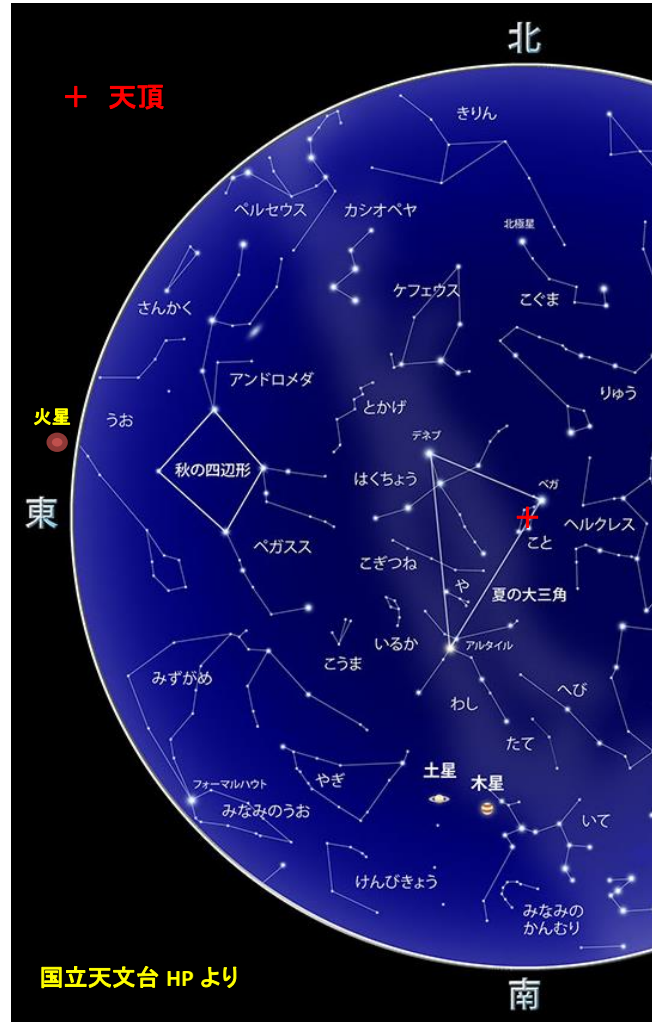
高速の流星が飛びますので、天気が良ければぜひ空を眺めてみてください。(蚊の対策は怠りませんように)

7月中旬、久々に肉眼彗星となったNEOWISE(ネオワイズ)彗星は次第に暗くなっていますが、8月上旬まではかみのけ座(北斗七星の左側)に見ることができます。双眼鏡をお持ちの方は、ぜひ探してみてください。ぼんやりとした光の塊のような姿を見ることができるでしょう。

遅い時間になると、東から火星が昇ってきます。10月上旬に準大接近を迎え、望遠鏡で表面の様子がはっきり見えるようになりますので、観望会を楽しみにしててください。

＜巨大ブラックホールの種になる星たち＞

巨大ブラックホールはほとんどの銀河の中心に存在していますが、その起源は大きな謎のままです。その課題を東北大学の鄭昇明(チョン・スンミョン)研究員と大向一行(おおむいかいかずゆき)教授が国立天文台のスーパーコンピュータ「アテルイII」を用いて克服しました。二人は炭素や酸素などの重元素を含むガス雲の長時間にわたる進化について、高解像度でのシミュレーションを行いました。その結果、予想通り中心には大きな星がつくられ、その周辺ではガスが激しく分裂して小さな星が形成されたのですが、その後、小さな星が中心に向かうガスの流れと共に移動し、中心にある大きな星と衝突・合体する様子が導き出されたのです。こうして中心付近につくられた大きな星は効率的に成長し、太陽の1万倍ほどの質量をもつ巨大星になることが明らかになりました。この巨大星が成長しやがて巨大ブラックホールになると考えられています。(2020.6.2 国立天文台のニュースより)



国立天文台 HP より



7/17 撮影